

NPO 法人 日本ウミガメ協議会
Sea Turtle Association of Japan



2020年10月～2021年9月

1. 日本におけるウミガメ関連情報のとりまとめ

1-1 2021年シーズン（2020年10月～2021年9月）の日本の産卵情報の収集

全国の機関・個人よりウミガメ類の上陸・産卵情報をいただいた。アカウミガメは4,480回の上陸、2,259回の産卵が確認された。また、アオウミガメは914回の上陸、582回の産卵が、タイマイは12回の上陸、7回の産卵が確認された。また、種の特定できなかった上陸回数は335回、産卵回数は176回であった。

1-2 2021年シーズンの漂着死体情報の収集

期間中、ウミガメ協議会事務局に通報を受けた漂着死体は634件であった。内訳はアカウミガメ211個体、アオウミガメ368個体、タイマイ18個体、ヒメウミガメ1個体、オサガメ1個体、交雑種（アカ×アオ）1個体、種不明34個体であった。

1-3 2021年シーズンの標識調査

2020年10月～2021年9月の間に、19の個人・団体・機関に1,738個の標識を配布した。また、203個のプラスチックタグを金属タグと交換した。

1-4 第31回日本ウミガメ会議（オンライン大会）の開催

2020年11月19日から20日にかけて標記会議をオンラインで開催した。参加者は100人を越え、初のオンライン開催ながら盛会であった。19日には松沢が、前回大会の開催地でもあった和歌山県みなべ町での調査の歴史の紹介と和歌山、種子島での調査から見てきたウミガメについての話し、その後はオンラインの練習を兼ねた懇親会を開催した。20日は午前には6題の口頭発表があり、午後には、全国のとりまとめ、上陸産卵情報、死亡漂着、混獲状況の報告があった。夜にはオンラインでの懇親会を開催した。

2日間大きなトラブルもなく実施することができた。



1-5 第32回日本ウミガメ会議（オンライン大会）の準備

第32回日本ウミガメ会議は予定していたやんばる大会を再度順延し、2021年12月18日19日の2日間の日程で、オンラインにて開催する。現在、各申込受付を開始し、開催に向けた準備を進めている。

1-6 令和1・2年度 徳島県 自然環境協力員育成（委託）

本事業は、徳島県内のアカウミガメ上陸・産卵調査等に関わる人材育成事業で、平成16年以降継続受託している。県内で募集した協力調査員（約15名）を対象に産卵シーズンに先立ち調査手法や関連情報に関する講習会を実施したうえで、個別の砂浜の調査結果に関して逐次報告を受け、それをとりまとめ、産卵シーズン後にフィードバックする報告会を実施している。本事業年度には、2020年11月21日に報告会を海陽町阿波海南文化村の会議室で、2021年6月5日に徳島市のエコみらいとくしま内会議室で実施した。

1-7 環境省モニタリングサイト1000 ウミガメ調査（委託）

本事業は、国内の様々な生態系に忍び寄り変化をいち早く察知するべく、環境省が多くの調査主体の協力により実施している包括的生態系モニタリング事業で、当会はこのうちウミガメ類の上陸産卵モニタリングと関連情報の調査とりまとめ等を2004年から担当している。2016年度の事業で見直した公募制を柱とする新体制を、1年間の休みを経て、2018年度から再開した。本年度は、38の調査主体に対して、ウミガメの上陸・産卵回数および調査範囲などに関するヒアリングを実施し、とりまとめを行った。

2 国際的な活動

2-1 米国大気海洋局との協働

アカウミガメ北太平洋個体群の産卵は近年低迷している。産卵後の回帰率が低いことから、危険な海域や脅威の特定は急務である。そこで、同個体群の適切な保全に資するべく、米国大気海洋局と協働で衛星追跡を実施し、多様な回遊生態の解明をはかる。本事業年度においては、室戸市内の大敷網に入網したメスのアカウミガメのうち、過去にみなべ町千里浜にて産卵経験したメス1個体に、GPS機能付き衛星送信機を装着して、産卵地への移動から産卵期、および産卵後の追跡を行った。

3 個別プロジェクト

3-1 みなべ町千里浜のウミガメ保護調査（補助）

2021年6月12日から8月22日まで、みなべ町教育委員会の支援を受けて千里観音境内の調査基地に職員2名が交代で入り、学生調査員およびみなべウミガメ研究班、青年クラブみなべと協働で調査を行った。調査は千里浜における夜間パトロールを実施し、産卵メスの個体識別および産卵巣へ食害対策用の金籠の設置を行い、随時、孵化率調査を実施した。また、この期間を通じて、周辺の砂浜（岩代浜、小目津浜、南部浜）での痕跡調査を昼間に実施した。なお、食害対策および孵化調査については、株式会社ライオン大阪工場のボランティアの皆様の協力を得た。調査期間中には、大阪ECO海洋動物専門学校の臨海実習を受け入れた。



3-2 アースウォッチ・ジャパン種子島のアカウミガメ調査（助成）

本プロジェクトは、アカウミガメの産卵地として屋久島に次ぐ規模の産卵を誇る種子島において、組織的な夜間砂浜踏査に基づく産卵メスの個体識別調査を実施するものである。主な目的は、屋久島や宮崎、みなべなど主要産卵地における回帰率の低さが種子島への産卵地の変更では説明できないことを確認し、間接的に、産卵後のメスの死亡率の高さを示すことにある。地元タートルクルーと連携し、三菱重工グループの支援を受けて継続しているが、昨年度に引き続き、新型コロナ感染拡大防止のためボランティアの参加は見合せ、研究者6名による8日の調査に留めた。

3-3 アースウォッチ・ジャパン紀州みなべのアカウミガメ調査（助成）

本プロジェクトは、アカウミガメの産卵地として本州最大を誇る和歌山県みなべ町において、千里浜に加えて、周辺の砂浜でも組織的な夜間砂浜踏査に基づく産卵メスの個体識別調査を実施するもので、これにより同一個体が町内の複数の砂浜を一体的に利用していることを示し、シーズン内の1個体あたりの産卵回数など基礎的な産卵生態を明らかにすることを目的としている。昨年度に続き、新型コロナ感染拡大防止のため、今年度もボランティアの参加募集は見合せ、GPSアルゴスを2頭の産卵個体に装着し、産卵後の移動経路を追跡するに留めた。



4 美波町回帰率向上拠点計画検討協議会への参画

文部科学大臣および国土交通大臣に認定された「美波町回帰率拠点計画」の実施に向けた取り組み、同計画の目標達成状況の検証、日和佐うみがめ博物館カレッタの機能強化事業の実施などに向けての取り組み等について必要な事項を検討する「美波町回帰率向上拠点計画検討協議会」の構成団体として参画し、本事業年度は3回のオンライン会合と、分科会に出席した。

4 情報発信・教育啓発

(※付属施設の活動については、「5」に記載)

4-1 講演活動

2020.12.04. 於：TSUTAYA トークイベント@枚方市
 2021.01.04. 於：TSUTAYA トークイベント@枚方市
 2021.05.19. 於：ライオン株式会社 みなべウミガメ調査オンライン講演
 2021.01.30. 於：三菱みなとみらい技術館 オンライン講演
 2021.03.22. 於：屋久島町エコツーリズム推進協議会講演@永田公民館
 2021.04.22. 於：ブルームバークオンライントーク
 2021.05.19. 於：ライオン株式会社 みなべウミガメ調査オンライン講演
 2021.07.02. 於：第3回 森里海を結ぶ広場 オンライン講演
 2021.09.14. 於：アースウォッチ・ジャパン 三菱重工オンライン報告会
 2021.09.28 於：アースウォッチ・ジャパン 日本郵船オンライン報告会

4-2 普及啓発

徳島県アカウミガメ上陸産卵調査報告会を開催 2020/11/21 徳島
 大学生とNPO・市民活動団体の交流会に出席 2020/03/18 枚方
 徳島県アカウミガメ上陸産卵調査講習会を開催 2021/06/05 徳島
 豊島株式会社オーガビッツ感謝の会に出席 2021/08/27 オンライン

4-3 その他

(1) 広報・メディア協力等 (抜粋)

テレビ朝日「トリニって何の肉!？」-ワニの性別は何で決まる?-2020/12/01 放送 取材協力
 大阪府枚方市「FMひらかた」に出演 2020/12/21
 徳島新聞 特集記事「未来との約束」2021/01/29-31 連載 取材協力
 NHK 徳島放送局 2021/04/09 放送 取材協力
 NHK 宮崎放送局 2021/05/21 放送 取材協力
 産経新聞 2021/07/15「保護されたウミガメが1カ月以上プラごみ排出」 取材協力

(2) 情報の発信・印刷物の発行等

●機関誌「マリンタートル」の発行

日本ウミガメ協議会の活動を広く周知するために、機関誌「マリンタートル」第30号(1/1)と31号(7/1)を発行した。



●ウミガメ速報の配信 計9回

ウミガメに関わる個人・団体間での連携と情報の即応性を高めるために、電子メール・ファックスなどを利用し、ウミガメの産卵情報を中心とした情報を不定期に配信した。

●「うみがめニュースレター」の発行支援

うみがめニュースレター編集委員会(委員長:石原孝、編集委員:平間茂知・河津勲・亀田和成・岡本慶、顧問:亀崎直樹)が発行している情報誌「うみがめニュースレター」の発行経費(印刷・発送)を全額支援した。
 事業年度中にNo.109号を発行した。



(3) インターシップの受け入れ

京都産業大学:1名、大阪府立大学:1名、甲南女子大学:1名 ほか

(4) 専門学校講義担当

大阪ECO海洋動物専門学校にて、週5コマ(海洋生態・水族館就職対策)を担当
 大阪ECO海洋動物専門学校のウミガメ調査実習(2泊3日)2回を担当

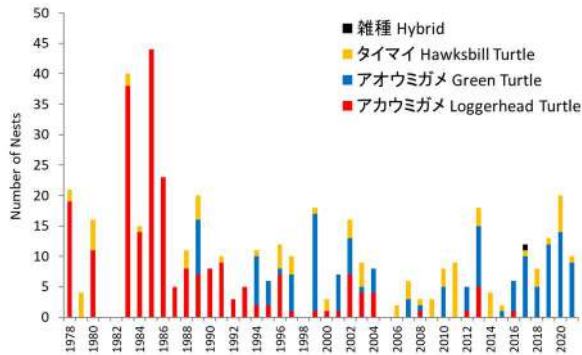
5 付属施設の活動

5-1 黒島研究所の活動

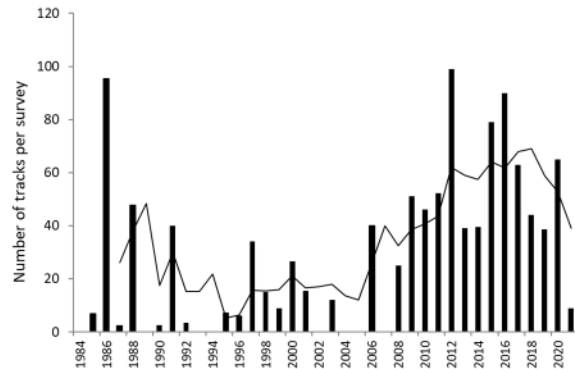
1. 調査・研究活動

●ウミガメ類の上陸産卵調査（主に黒島西の浜、西表島南岸のウブ浜とサザレ浜）

黒島西の浜におけるウミガメ類の産卵調査は、荒天時を除き、毎日実施した。アオウミガメの上陸 26 回そのうち産卵 9 回、タイマイ上陸 3 回そのうち産卵 1 回が確認された。初めて 7 年連続でアオウミガメの産卵が確認された。西表島の南岸のウブ浜とサザレ浜で 3 回の調査を実施した。その結果、アオウミガメ上陸 11 回そのうち産卵 9 回であった。この回数は 2006 年以降で最も少なかった。



西の浜におけるウミガメ類の産卵数の推移



西表南岸におけるアオウミガメの上陸回数

●ウミガメ類の標識放流調査

今年度はアオウミガメ 90 個体を標識放流した。手法別では、黒島周辺での刺し網による捕獲調査は 9 回実施し、アオウミガメ 63 個体を捕獲した。その他に、ヘッドスタート 11 個体、産卵 1 個体、漁業者による混獲 15 個体をそれぞれ標識放流した。

●助成・委託事業

助成事業：共同研究者による 1 つが採択された。

委託事業：民間企業から 1 件を委託した

●論文・学会発表など

亀田和成・小野昌彦(2021) 14 年間に 6 回捕獲されたタイマイの 1 例。うみがめニュースレター109: 1-4

Takuya Fukuoka, Tomoko Narazaki, Masaru Miyayama, Chihiro Kinoshita, Kazunari Kameda, Kazunobu Kogi, Katsufumi Sato, Sea turtles ingested artificial debris during travelling period near the surface, 7th International Bio-logging Symposium, Oral presentation. 19-23 Oct 2021

●本年度に実施、もしくは、次年度に予定しているプロジェクト

琉球列島におけるアオウミガメふ化幼体の性比（高知大・美ら島財団との共同研究。本年度終了）

ドローンを用いたアオウミガメの生息密度と個体数推定（三重大との共同研究。本年度終了）

ゲノム情報を活用したウミガメ類の雑種判定（東北大との共同研究。来年度も継続予定）

アオウミガメの摂餌生態に関連した海洋ゴミ誤飲（名城大学・東京大学。継続中予定）

一宮海岸におけるアカウミガメ産卵地の孵卵温度（東邦大学、本年度終了）



東京大とのウミガメ追跡調査



修学旅行での放流プログラム

Ⅱ. 利用研究者・学生

2020年

学生：海洋大3名、三重大1名、高知大1名

2021年

学生：琉球大2名、海洋大3名、三重大1名、九州大1名、東京大2名、東邦大1名、高知大1名、宮崎大1名、日本大1名

利用者合計16名

Ⅲ. 団体の受け入れ

修学旅行：高校6校・計8回

学習体験：小中学校4校

この他、クラブツーリズムを19回受付

Ⅳ. 新聞掲載・テレビ出演等

新聞・雑誌掲載

黒島研究所更新に支援を。謎のロケット部品漂着 海外製か 近く展示へ 黒島研究所。 八重山毎日新聞

地球の歩き方ガイドブック島旅

テレビ出演、映像・画像提供

日本テレビ「夢の通り道」

TBS テレビグッとラック！

Ⅴ. その他

入館者数 5,987人（2020年10月～2021年9月）

- 新型コロナウイルス感染防止のため2021年5月26日～6月20日は休館
- ウミガメ勉強会 冬休み、春休みの連休時に毎日
- マリントラトラ発行
- 竹富町海洋教育プログラムを支援

（若月・亀田・中西）

5-2 むろと廃校水族館および室戸基地の活動

I. 調査・研究活動

●ウミガメ類の通常調査

(主に高岡・三津・椎名混獲個体の計測標識放流、標識個体の計測、上陸痕跡確認)

- ・大敷網 アカウミガメ 111 頭、アオウミガメ 62 頭、オサガメ 1 頭
- ・漂着 アカウミガメ 3 頭、アオウミガメ 10 頭
- ・上陸産卵 アカウミガメ 1 頭

II. 利用研究者・学生

2020年

- 10月 東邦大 1名、日本獣医生命科学大学 1名、室戸中 2名、奈半利中 2名
- 11月 羽根中 1名
- 12月 金沢大 1名

2021年

- 1月 東邦大 2名、KAP 2名、大阪ECO 2名
- 3月 大阪ECO 4名、KAP 1名、東邦大 1名、高知大 1名
- 4月 高知大 1名、金沢大 1名
- 5月 KAP 1名、SAO 1名
- 6月 佐喜浜中 1名
- 7月 室戸中 2名、北里大 1名
- 9月 三重大 1名、東京海洋大 1名、野根中 1名

利用者合計 32名



2021年カレンダー表紙

III. 団体の受け入れ

●学校・保育園（遠足等）

2020年

- 10月 北川村立北川小学校、土佐清水市5校連合小学校、室戸市立羽根小学校、安芸市立川北小学校、高知県立高知南中学校、香南市立吉川小学校、室戸市立室戸小学校、愛媛県立新居浜市菟中学校、土井保育所、おひさま保育所、サムエル学園
- 11月 奈半利町立奈半利小学校、室戸市立羽根小学校、高知県立西高等学校、徳島県阿南市立見能林小学校、高知大学、羽根保育園
- 12月 四国中央市立中之庄小学校、琴平町立榎井小学校、南国市立岡富小学校

2021年

- 1月 北川村立北川小学校、高知県立伊野商業高等学校
- 2月 室戸市立室戸中学校
- 3月 室戸市立室戸小学校、穴内保育園
- 4月 高知県立岡富高等学校、高知県立高知国際中学校、高知県立高知工業高等学校、近森病院附属看護学校、高知市立中央高等学校
- 5月 高知県立春野高等学校、高知大学教育学部附属小学校
- 6月 北川村立北川小学校、宿毛市立東中学校、とさ自由学校、南国市立北陵中学校
- 7月 大洲東中学校、新谷中学校、肱川中学校、長浜中学校、香南中学校、大洲北中学校、大洲北中学校、肱東中学校、新田青雲中等教育学校
- 8月 県立安芸中学校、蒼開中学校
- 9月 高知県立高知丸の内高等学校

●議員等の視察受け入れ

2020年

- 12月 愛知県蒲郡市議会

2021年

- 2月 香南市観光協会
- 6月 高知県広報公聴課

●ツアー

読売旅行、阪急交通社、JR四国、穴吹トラベル、とさでんトラベル、香北観光、などの団体が来館

IV. 新聞掲載・テレビ出演等

- 全国・ローカル問わず多数出演
- 高知新聞、読売新聞など多数掲載
- 高知新聞「閑人調」、朝日新聞「海はエライ」コラム連載（若月）

V. その他

- 入館者数 70,988人（2019年10月1日～2020年9月30日）

- 新型コロナウイルス感染症対策

- ・入館時に検温と手指の消毒
- ・館内では一定の間隔を開けて一方通行
- ・チケットとグッズは屋外で販売（受付にアクリル板を設置）
- ・換気のため一部の扉や窓を常時開放
- ・職員のマスク着用

- ウミガメ調査体験

- 主に小・中学生を対象として実施

- イベント実施

2020年

- 10月 巨大ブリ贈呈式(主催：室戸市)
- 11月 企画展「あたらしい海の仲間たち」
- 12月 サンタさん登校
- むろと廃校イルミネーション水族館
- 年末オールナイト開館

2021年

- 1月 初日の出鑑賞
- イカ墨の書き初め大会
- 2月 サバらしい日々
- 5月 せいくらべ
- ぶりくじ5万匹記念黄金ぶり贈呈式
- 7月 あなたのシイらない魚介

- Twitter 毎日更新

- 講演活動

2020年

- 11月27日 高知県芸東地区教頭会
- 12月4日 甲浦小学校

2020年

- 2月4日 高知県観光ガイド連絡協議会
- 3月1日 室戸市婦人連合会
- 3月4日 水族館大学（オンライン開催）



「あたらしい海の仲間たち」展示風景



ぶりくじ5万匹記念 黄金ぶりぬいぐるみ



「あなたのシイらない魚介」限定メニュー



「むろとイルミネーション水族館」実施風景

（若月・田中・米田・岩崎・千原・杉浦・柴田）